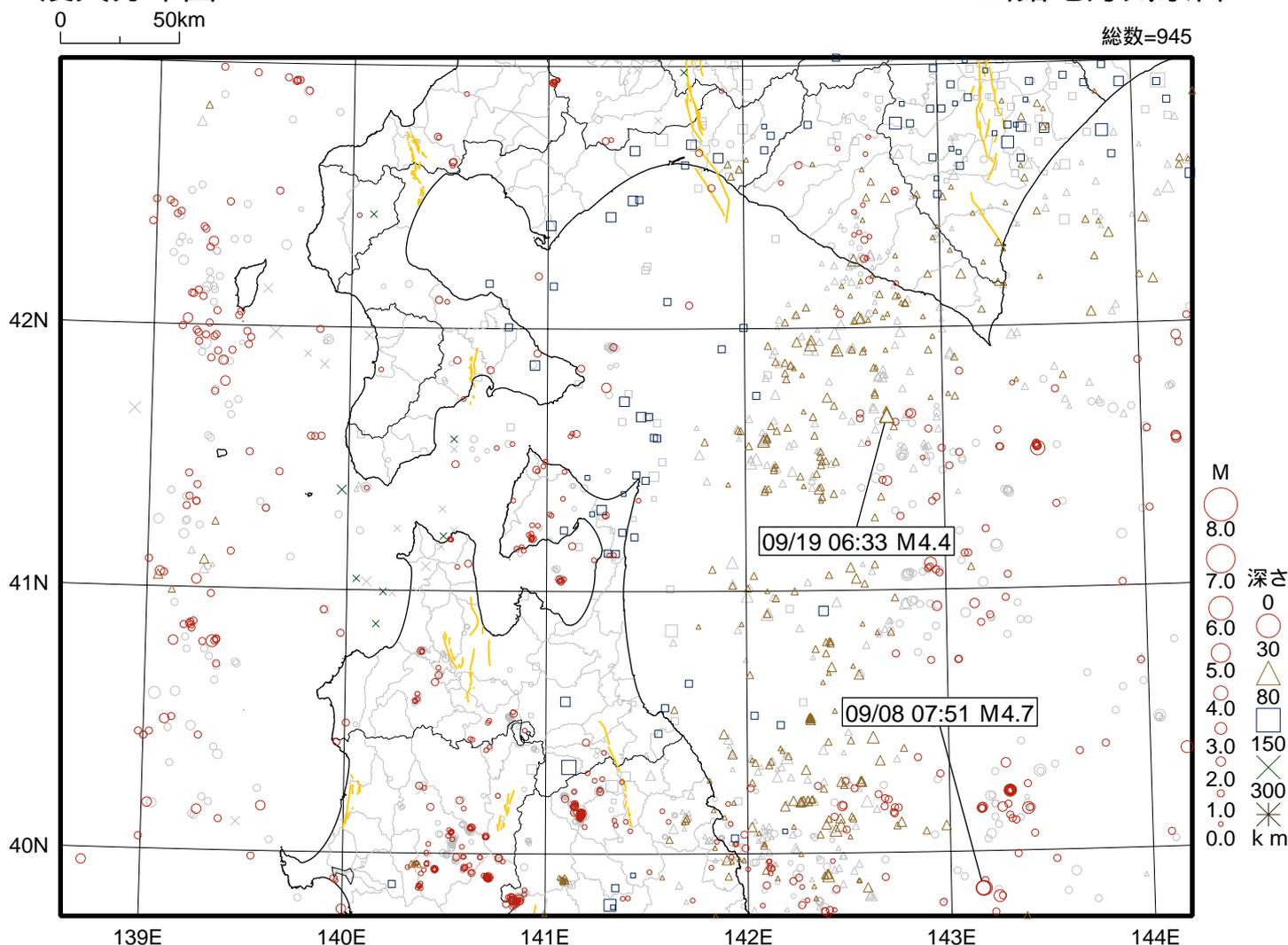


# 渡島・檜山地方の地震活動図

2024年9月1日～2024年9月30日

震央分布図

函館地方気象台



## 地震概況 (2024年9月)

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回(8月は4回)でした(詳細は「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照)。

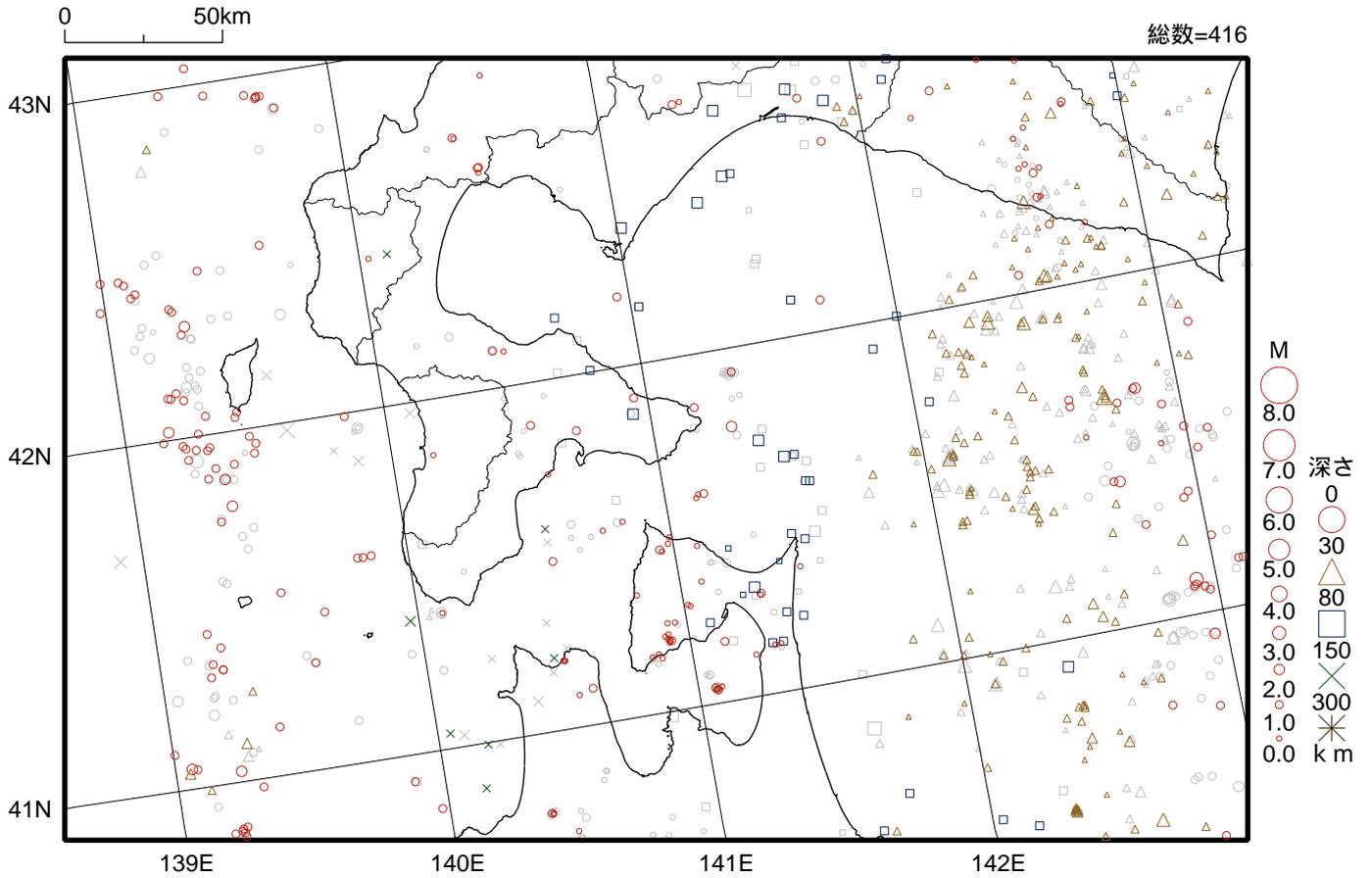
8日07時51分、三陸沖の地震(M4.7、深さ18km)により、函館市泊町で震度1を観測しました。

19日06時33分、浦河沖の地震(M4.4、深さ45km)により、函館市泊町、函館市新浜町で震度1を観測しました。

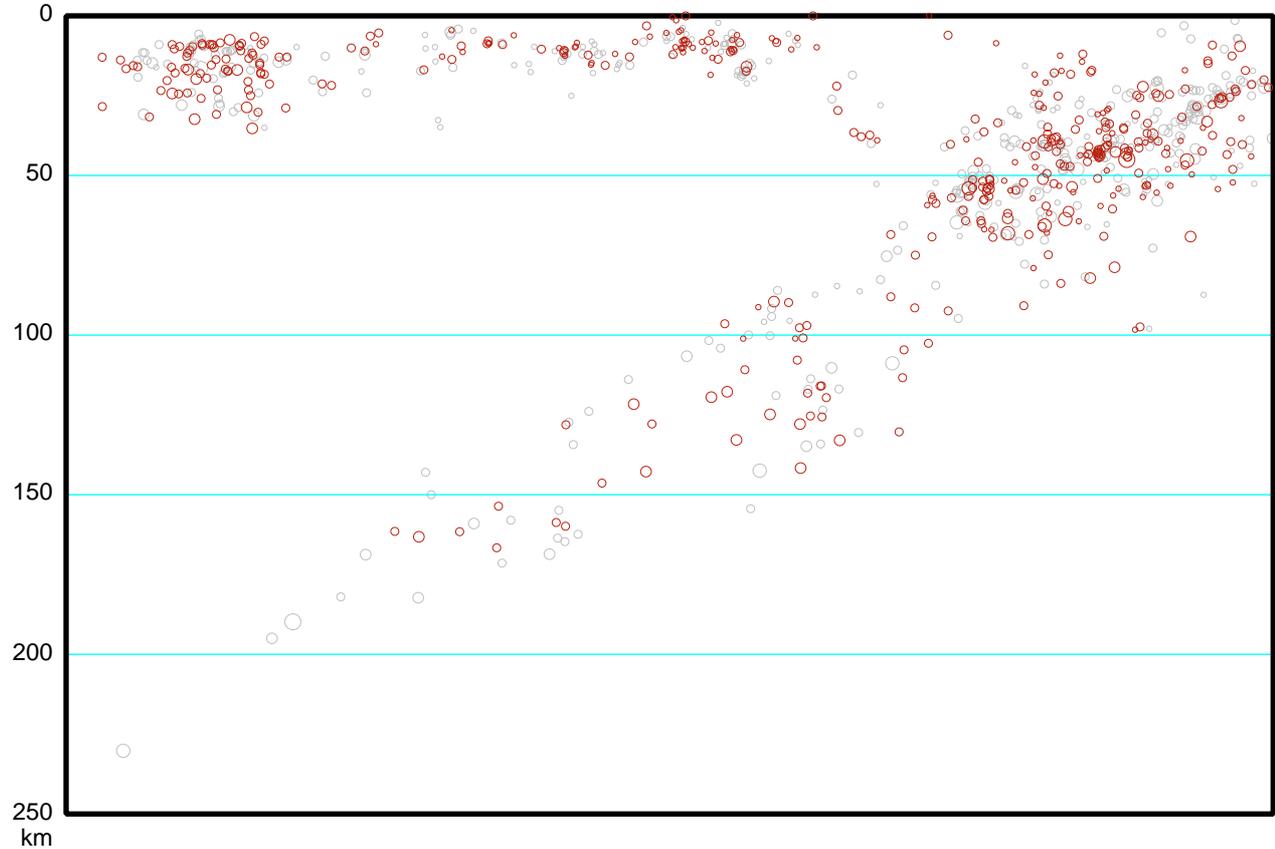
26日16時01分、釧路沖の地震(M5.7、深さ59km、震央分布図の範囲外)により、函館市新浜町で震度2を観測したほか、函館市泊町、函館市川汲町、鹿部町で震度1を観測しました。

2024年9月1日 ~ 2024年9月30日

震央分布図



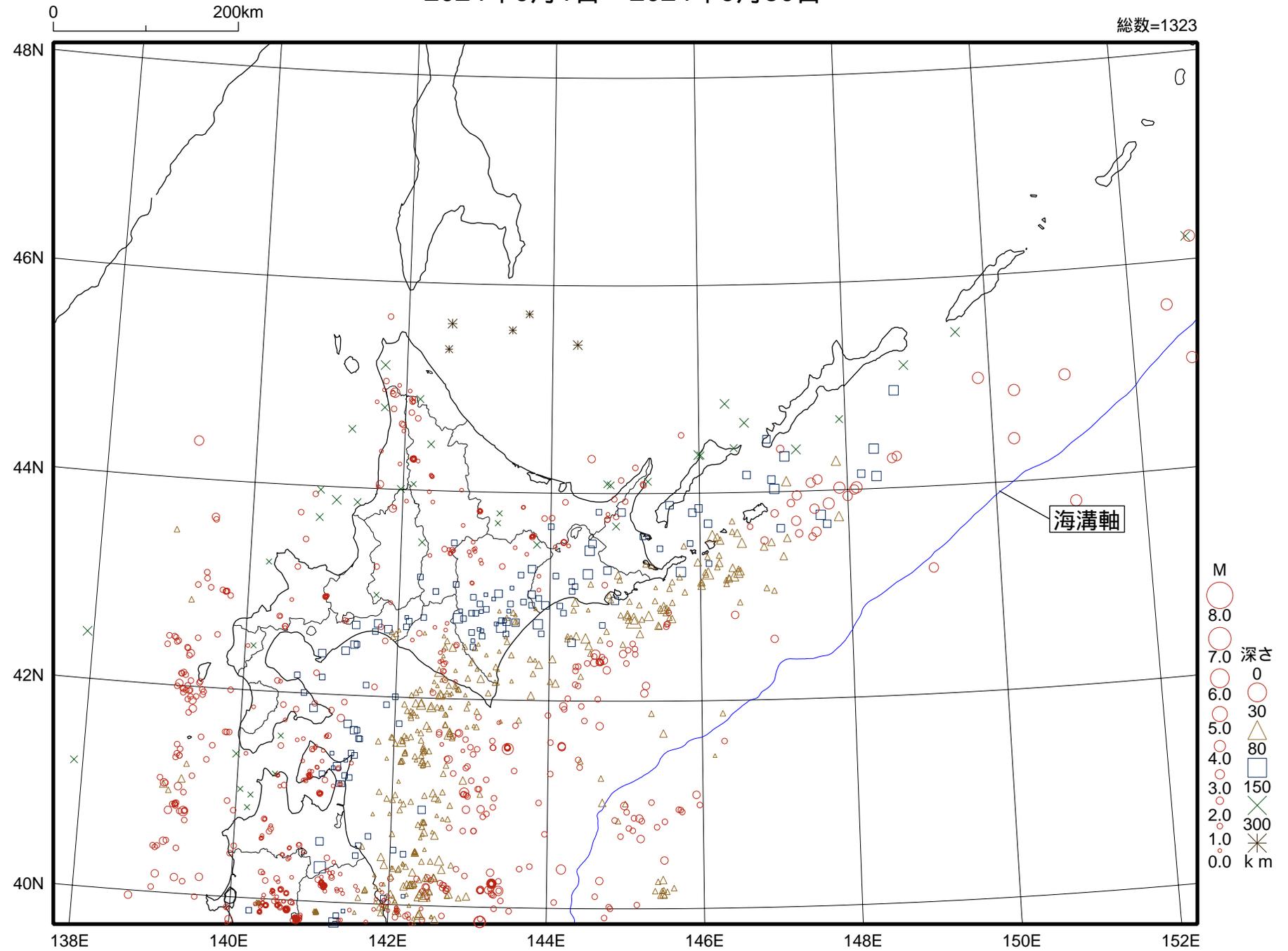
断面図



# 北海道の地震活動図

2024年9月1日 ~ 2024年9月30日

震央分布図



## 渡島・檜山地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2024年9月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 ( N )	東経 ( E )	深さ ( k m )	規模 ( M )
2024年 9月 8日 渡島地方	07時51分 震度 1	三陸沖 函館市泊町 * (06)	39 ° 51.5 N	143 ° 09.4 E	18 k m	M4.7
2024年 9月 19日 渡島地方	06時33分 震度 1	浦河沖 函館市泊町 * (13) 函館市新浜町 * (09)	41 ° 39.8 N	142 ° 43.0 E	45 k m	M4.4
2024年 9月 26日 渡島地方	16時01分 震度 2 震度 1	釧路沖 函館市新浜町 * (19) 函館市泊町 * (14) 函館市川汲町 * (06) 鹿部町宮浜 * (09)	42 ° 46.6 N	145 ° 06.7 E	59 k m	M5.7

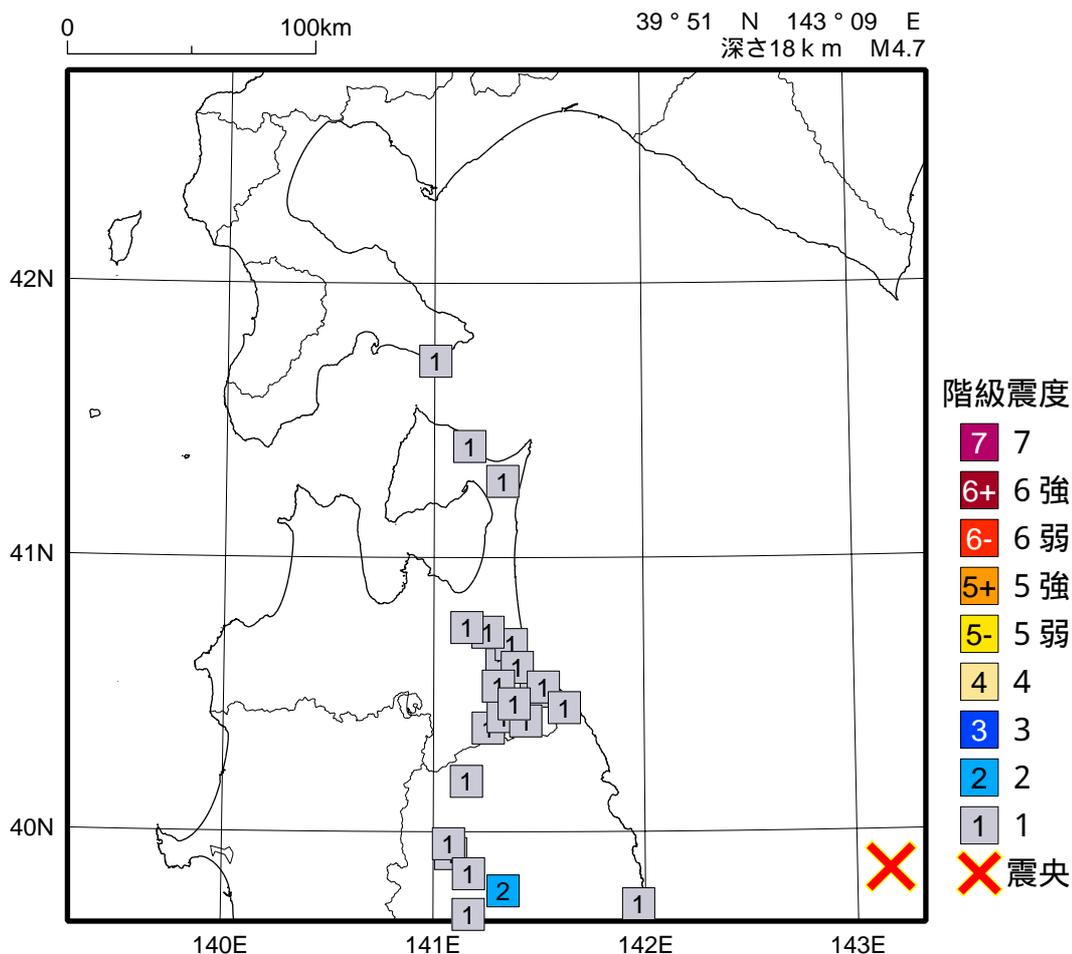
\* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

( )内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

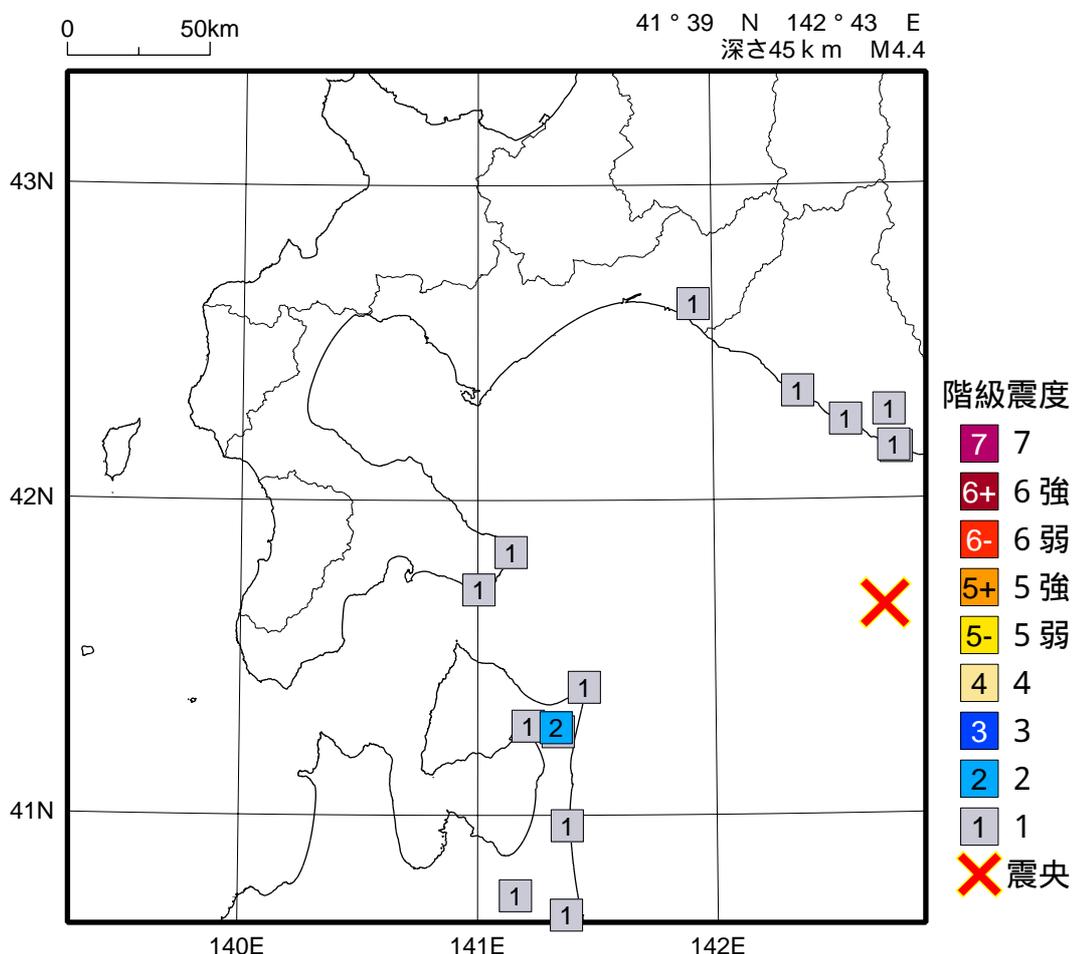
### 計測震度と震度階級の関係

計測震度	~ 0.4	0.5 ~ 1.4	1.5 ~ 2.4	2.5 ~ 3.4	3.5 ~ 4.4	4.5 ~ 4.9	5.0 ~ 5.4	5.5 ~ 5.9	6.0 ~ 6.4	6.5 ~
震度階級	0	1	2	3	4	5 弱	5 強	6 弱	6 強	7

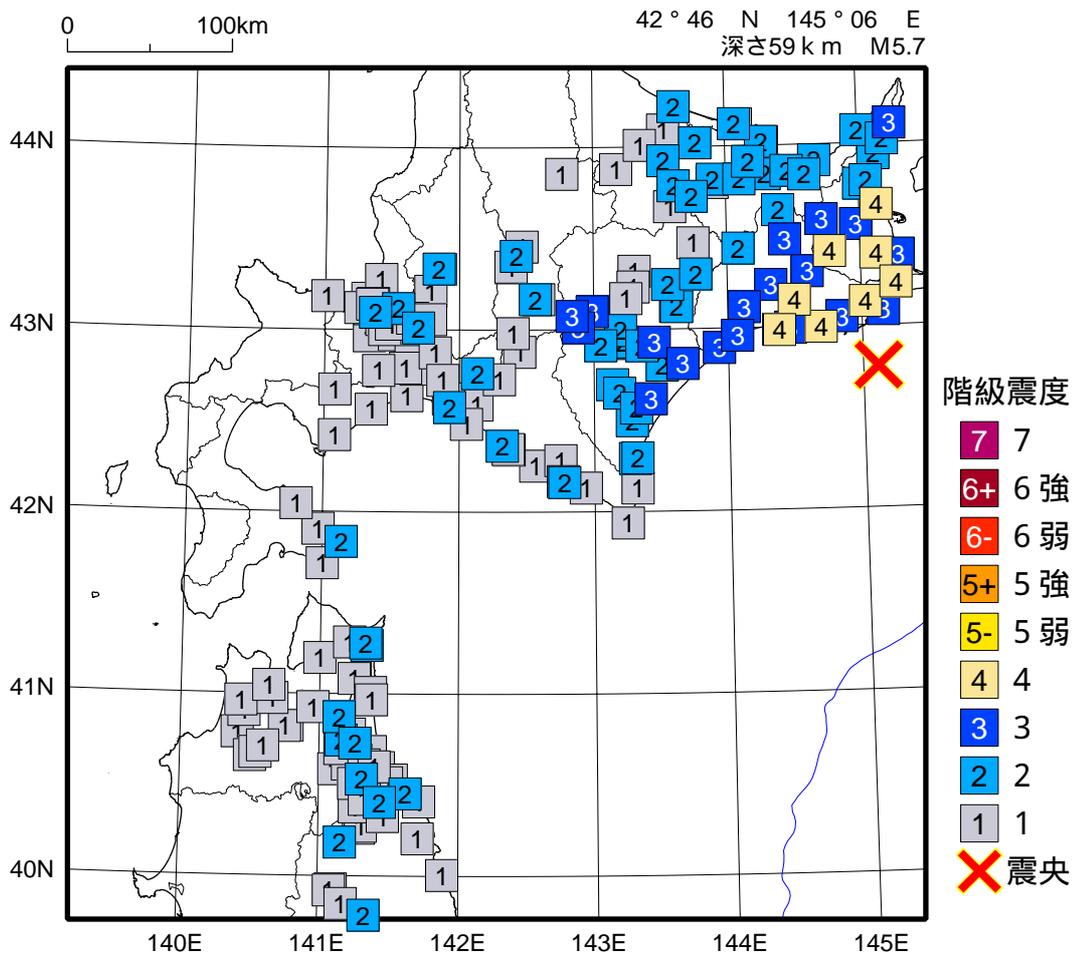
2024年 9月 8日07時51分 三陸沖の地震の震度分布図



2024年 9月19日06時33分 浦河沖の地震の震度分布図



# 2024年 9月26日16時01分 釧路沖の地震の震度分布図



## 本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

## 【防災メモ】

# ～11月5日は津波防災の日・世界津波の日～

### ●津波防災の日・世界津波の日とは

平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災を教訓として、同年6月に津波対策を総合的かつ効果的に推進することを目的とした「津波対策の推進に関する法律」が制定されました。その中で、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めるために、11月5日を「津波防災の日」とすることが定められました。11月5日(旧暦)は、安政元年(1854年)に、「稲むらの火」<sup>※1</sup>のモデルとなった、安政南海地震が発生した日です。さらに、平成27年の国連総会では11月5日を「世界津波の日」とすることが採択され、津波防災の新たな取り組みが始まりました。

#### ※1「稲むらの火」

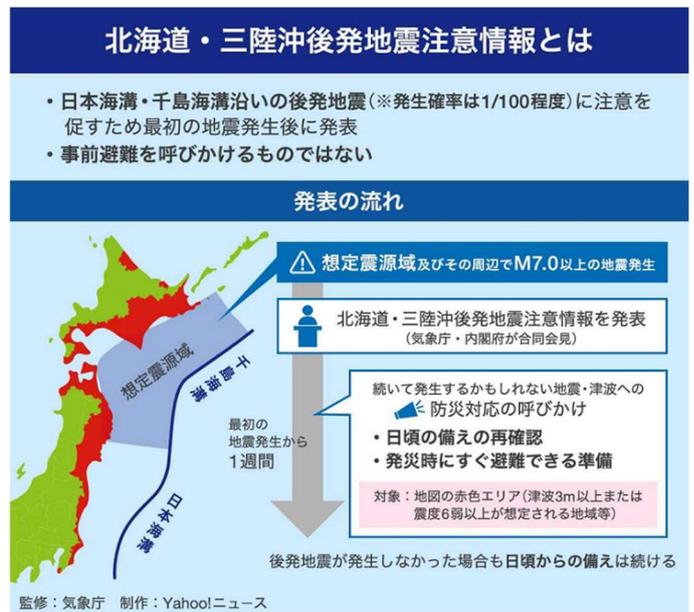
海辺の村を大津波が襲った際、村の郷土が積み上げられた稲束の「稲むら」に火を放ち、暗闇の中で多くの村人を高台に導いて救ったという物語。戦前の国語教科書に掲載され、現在も津波防災教材として国内外で高く評価されています。

### ●「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について

北海道でも大きな津波を伴う巨大地震が繰り返し発生しています。巨大地震による被害を少しでも減らすため、想定震源域やその周辺でマグニチュード7.0以上の地震が発生し、大規模地震発生の可能性が平常時より相対的に高まった際に、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表します。

この情報は令和6年8月に発表された「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」と同様に、事前避難を呼びかけるものではありません。慌てずに日頃からの備えを再確認しましょう。

札幌管区気象台HP  
「北海道・三陸沖  
後発地震注意情報」



### ●津波から身を守るために

#### 危険な場所を確認しよう

津波に襲われる恐れのある場所をハザードマップや周辺地形から確認しておきましょう。



津波注意

#### 避難場所を確認しよう

津波避難ビルや津波避難場所がどこにあるか、また避難経路などを周りの人と確認しておきましょう。



津波避難ビル・津波避難場所

#### 避難訓練に参加しよう

実際に避難経路をたどってみるなど、積極的に訓練に参加しましょう。

